

日韓・日朝関係の現状と展望

慶應義塾大学 西野純也

1. はじめに

「歴史」と「地政学」が支配する 2015 年？

- ・戦後 70 年、解放 70 年、日韓国交 50 年、抗日戦争勝利 70 年、労働党創建 70 年など
- ・中国の台頭、米国のリバランス（日米ガイドライン、安保法制、海洋安全保障など）
→ナショナリズムとパワー・ポリティクスの中での慎重な政治・外交運営の必要性

2. 日韓関係

(1) 国交 50 周年に問われる「1965 年体制」

- ・慰安婦問題（2011 年 8 月憲法裁決定）／徴用工問題（2012 年 5 月大法院判決）
→日韓基本条約第 2 条「もはや無効」
請求権経済協力協定第 2 条「完全かつ最終的に解決されたこととなることを確認」
- ・領有権問題→紛争の解決に関する交換公文（日本側は国際司法裁判所での解決を選好）

(2) 「内政問題化」の更なる進行（朝日 AJW 寄稿参照）

- ・両国指導者言動への否定的認識
- ・より深刻な日本世論（内閣府調査など）
- ・「韓国疲労感」、「ゴールポストを動かす韓国」との認識→政策へ反映
- ・世界遺産登録問題（日韓関係の現状よく表している）

(3) 乖離しつつある外交安保戦略（AJISS コメント参照）

- ・異なる対中認識→政策の違い（長期的に深刻な影響になり得る）
- ・米国の懸念、外交安保面での連携働きかけ（2014 年後半以降強まる←中韓関係）
- ・日韓外交・安保チャンネルの復元／「ツー・トラック」(Two Truck) 明言

3. 日朝関係

(1) 期待から失望へ

- ・キム・ウンギョン、横田夫婦面会（2014 年 3 月、ウランバートル）

- ・ストックホルム合意（2014年5月）：包括的かつ全面的調査のための特別調査委員会
- ・特別調査委立ち上げと制裁一部解除（2014年7月）
 - 4分科会（拉致被害者、行方不明者、日本人遺骨問題、残留日本人・配偶者）設置意図
- ・伊原外務省アジア大洋州局長訪朝（2014年10月）→膠着状態
- ・自民党対北朝鮮措置シミュレーションチーム（2015年5月）

（2）狭まる外交空間

- ・北朝鮮人権に関する国連調査委員会（COI）報告書（2014年3月）
- ・南北対話停滞（2014年10月アジア大会閉幕式不発）
- ・米朝関係緊張（2014年末サイバー攻撃など）
- ・金正恩訪露なし／中朝政治関係停滞持続

（3）内政課題の山積

- ・安保法制論議
- ・戦後70年談話（2015年8月）
- ・自民党総裁選（2015年9月）／アベノミクスの行方
- ・金正恩体制安定、経済成果→党創建70年祝賀（2015年10月）

4. 今後の見通し

（1）日韓関係

- ・米韓首脳会談（2015年6月）の結果
- ・「ツー・トラック」の維持／慰安婦問題の困難持続
- ・戦後70年談話後の動向／日中関係の進捗具合
- ・日中韓首脳会談時の日韓首脳会談
- ・2016年以降は選挙の季節
(16年4月韓国総選挙、7月参議院選挙、11月米大統領選挙、17年12月韓国大統領選挙)

（2）日朝関係

- ・「1年を目処」報告書提出期日の延期／水面下協議の持続
- ・南北関係、米朝関係、中朝関係の動向注視／日米韓連携の復元
- ・労働党70年（平和攻勢か軍事力誇示か）